

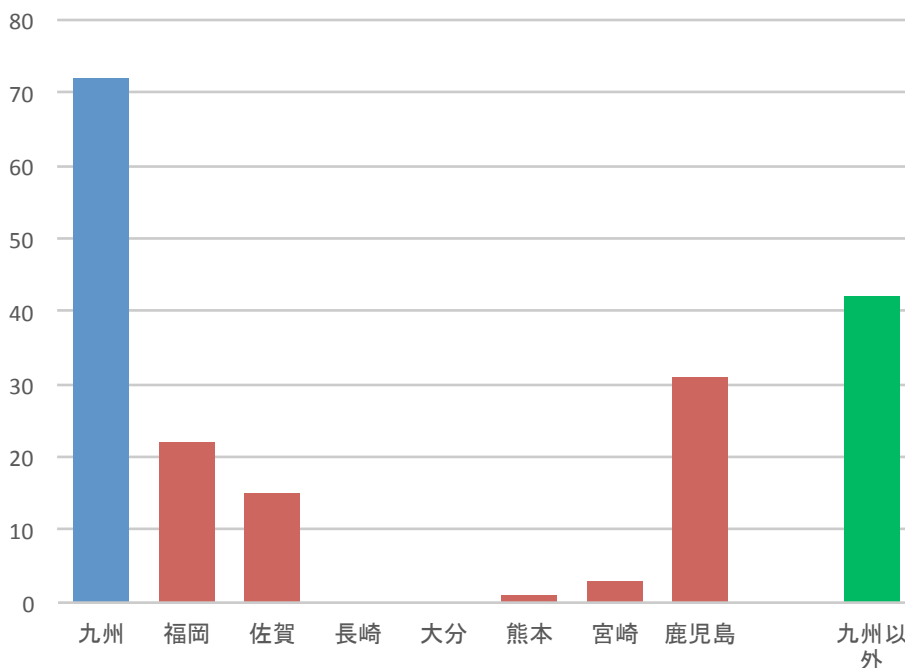
プリオン病の治療薬開発研究に向けた 臨床疫学研究

研究分担者: 福岡大学医学部神経内科学 坪井義夫

福岡・佐賀地区のGSS家系研究

プリオン病の新規治療薬探索研究の中で、今後臨床応用可能な薬物の開発が見込まれる。治療研究対象候補として、緩徐な進行を呈するGSS病が注目されている。サーベイランスデータからの解析で、全国で発症した約114例のGSSのうち約半数が九州地区で発症しており特に福岡ー佐賀地区・鹿児島が多い。これら地区の新規発症者のモニター体制を確立し、将来の治療研究の基礎とするために、さらにGSS病家系の中で発症素因(at risk)家族実態調査も近隣の医療機関と協力の下に行う。

サーベイランスデータから見たGSS患者の分布



解説

- GSSの発症者は九州地区特に福岡・佐賀・鹿児島に顕著である
- GSS発症者はやや高齢化の傾向にある
- 発症者の半数は九州地区であり、今後のGSS診療連携により、効率の高い早期診断、疾患修飾治療の開発における基礎データの蓄積が可能になると考えられる。